精霊の巨木 樹齢600年 大杉胎内くぐり

大室の森林をつなぐ会の皆さんによって設置された「胎内くぐり」の大杉

当神社が鎮座する大室地区では、古よりその屋号を大杉と称する髙橋家（現氏子総代髙橋一雄様宅）がある。その屋号の由来となる高さ40メートル、樹齢600年以上（森林関係機関推定）の杉の木を令和元年に伐採する事となった。この杉の木の根元は空洞になっており、それを「胎内くぐり」として、髙霊神社に奉納したらどうかと大室の森林をつなぐ会 齋藤文明会長が提案し、全長2メートル、重さ2.5トンに加工し境内設置に至った。

胎内くぐりとは狭い場所や割れ目を通りぬけることにより、肉体と魂を浄化し新たに生まれ変わるという信仰である。

この杉の木を囲む６本の柱は、安西三千夫・髙橋一三会員の奉納で、出世の樹、魔除けの樹とされる「槐（えんじゅ）」。強靭な材として強木（つよき）と呼ばれる「欅（けやき）」。そしてこの杉の木の先端部分を製材したもの等様々な縁起の良い木を使用している。

地球上の生物では成し得ない600年の齢を重ねた杉の木をくぐり、その大いなる力を頂き、多くの参拝者が、身体健やかに、心清かに過ごされる事を願う。

令和3年6月30日

スギ巨木使い「胎内くぐり」

日光・高霊神社で奉納式

樹齢600年超の御利益に期待

【日光】大室の有志らでつくる「大室の森林をつなぐ会」が同所の高霊神社に設置した、スギの幹の内部を参拝者がくぐる「胎内くぐり」がこのほど、一般公開された。

胎内くぐりに使われたスギは推定樹齢600年以上で、全長約２㍍、重さ約2.5㌧。直径は最大約2.3㍍。同会が昨年11月から木の加工などの準備を進め、６月末までに設置した。

同神社で行われた奉納式には、同会関係者ら11人が出席。狐塚泰久宮司（59）が神事を執り行った後、会員らがくぐり初めをして完成を祝った。

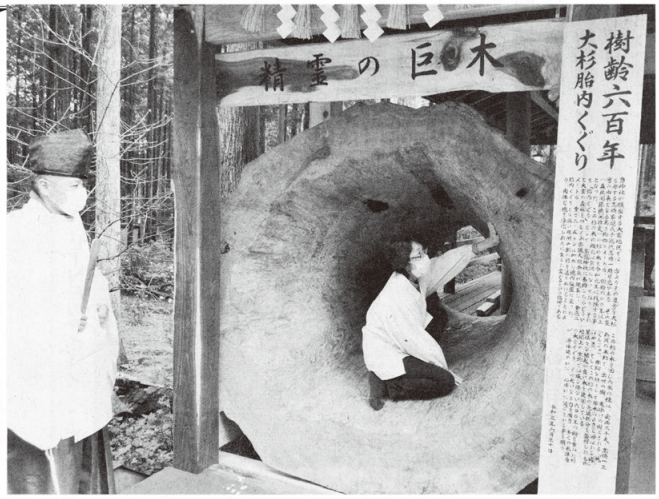
式とともに神事「夏越の大祓」も行われ、参拝者も次々とくぐった。

矢野口、自営業安田真知子さん（53）は「木の中をくぐるのは初めての経験。親や自分の健康などを願った」と話していた。

同神社は設置を記念して胎内くぐりをデザインした御朱印も作った。１枚千円で、枚数は樹齢にちなみ限定600枚。

問同神社0288・26・6240。

（文・写真　鈴木祐哉）



くぐり初めをする関係者ら

ⓒ下野新聞
2021年(令和3年)7月7日
掲載記事